

令和6年12月22日 楽習会

参加されたみなさまからの感想

- ・ 比喩表現がとても豊かで、どれほどその食べ物がおいしいのかが、すごく伝わるなと思いました。漢文は難しい内容ばかりだと思っていたけど、異城の食のように面白いものもあるんだなと知れました。
- ・ 楽しくお話を聞くことができました。来年度も楽しみにしています。
- ・ 文字と説明で、イメージがふくらみました。食べ物の詩はおもしろいと思いました。
- ・ 杜甫や白居易といった有名な詩人が食事の詩を作っていること自体が驚きでした。詳しく解説していただけたのも興味深かったです。
- ・ 漢詩には多くの形式やルールがあり、あまり自由度は高くないイメージでしたが、「サクランボ（櫻桃）がおいしかった」というだけ（賜ったことへの感謝や恐れ多いという思いも書かれていましたが）の詩や、料理のレシピのようなものを詩にした作品もあり、ユニークでとてもおもしろかったです。解説を聴きながら、ライチが食べたくなりました。
- ・ 食に関することということで、講義も興味を持って聞けました。訳文を追うだけで精一杯でしたが、知らないことに触れることができ、また、講師の広い知識に感服しました。
- ・ 冒頭で先生もお話されていましたが、酒の話、宴会の話は詩の題材になることは多いイメージがありましたが、食べ物の味や料理の様子を題材にした詩がこんなにあるとは思わず、どれも表現が具体的で面白く、食レポを読んでいるかのような気になり、楽しかったです。
- ・ 中国の食生活が見えておもしろかった。来年度のテーマも楽しみにしています。
- ・ 膳の中身、料理の仕方、材料、宴席の様子が目に浮かぶ。果物の表現、味も形も味わっているような詩だった。